

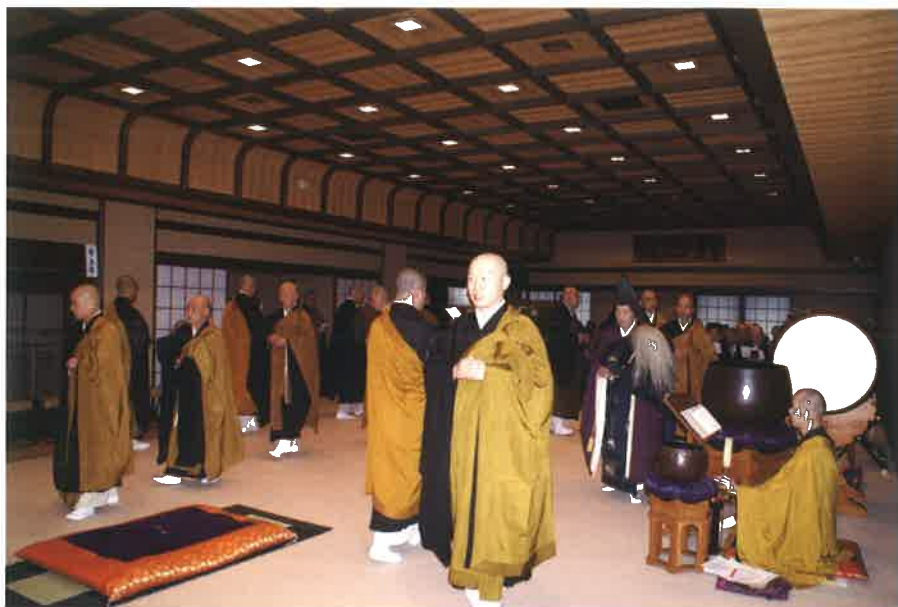


開山 榎庵白純大和尚
三十三回忌法要
第二十四回
育英会辞令交付式



開山棟庵白純大和尚の三十三回忌法要並びに「横浜善光寺留学僧育英会」の第二十四回辞令交付式が平成二十三年二月十一日午後二時から執り行われました。釈迦殿には関係のご寺院様、檀信徒総代、親類縁者をはじめゆかりの方々が集い、ご開山のご遺徳を偲ぶと共に、先代の大圓武志大和尚が心血を注いだ育英事業の継続発展を喜びました。

育英会の平成二十三年度採用者は、ポーランドのアダム・ミソキュビナ大学大学院日本学科修士課程のウカシユ法純シュブナル氏（二十九歳、男性）、ドイツのハイデルベルグ大学日本学部のエッカーター・トビアス氏（二十六歳、男性）、中国の中国人民大学哲学科博士課程の史経鵬氏（二十六歳、男性）、日本の樋口星覚氏（二十九歳、男性）の四人に決まり、理事長の黒田博志住職から辞令と育英金、記念品が授与されました。



開山棟庵白純大和尚の三十三回忌は、本寺光真寺のご住職、黒田俊雄老師の導師により厳修されました。引き続き育英生の辞令交付式が行われ、安藤嘉則理事が「優秀な方が応募され、選考は例年になく困難だったが理事長の英断で四人を採用した」と選定経過を報告されました。

育英生は、ウカシユ法純シユプナル氏が駒沢大学博士課程へ。エッカーター・トビアス氏は京都の黄檗山萬福寺で修行。史経鵬氏は武蔵野大学の交流協定留学生として留学。樋口星覚氏は米国のニューヨーク禅センターで修行されます。

式典終了後、黒田俊雄老師は「先代の大圓武志大和尚が心血を注いだ育英事業の志を博志住職が引き継ぎ、今年は四人もの育英生に辞令を交付することは仏道興隆のために尊いこととお祝いし、感謝を申し上げます。泉下で武志大和尚も喜んでいと思う」とご挨拶されました。



博志住職は「昨年十一月に先代の七回忌と私の晋山式を無事勤めることができた」と感謝の言葉を述べ、「開山様が亡くなったのは私が三歳の時で、葬儀の時、中耳炎で大泣きしたことしか覚えていない。大雪だったと先代に聞いている。先代が亡くなった時も雪が降った。今日も大雪に見舞われ、何か不思議なご縁を感じる」と感慨深く振り返りました。

また、育英会について「初代理事長である先代の心を心として日々精進していきたい」と決意を新たにすると同時に、「先代に何回も言われたことは、人のために尽くせということだ。尽くして尽くして尽くし抜け、と言われたことが少しわかってきたような気がする」と述べ、師であり父である先代・武志大和尚の遺訓を胸に刻んで歩んでゆく覚悟を力強く表明しました。